

江差の観光

概況

- ①団体客から個人客へのシフト
- ②北海道新幹線開業が観光振興に結び付かない現状

JRによる来道者の推移

(単位: 万人)

年度	人 数	対前年増減	増減率
H25	75.6		
H26	71.4	▲ 4.3	▲ 6.0
H27	71.2	▲ 0.2	▲ 0.3
H28	115.3	44.1	38.3
H29	91.8	▲ 23.5	▲ 25.6
H30	84.5	▲ 7.3	▲ 8.6

※北海道調査資料による

※北海道新幹線開業はH28. 3. 26

- ③観光客入込数の減少・・・添付の3観光施設の状況
- ④外国人宿泊者増加の傾向

訪日外国人宿泊客延数【推移】

年度	中	韓	台	香	新	マ	泰	越	英	仏	独	米	加	豪	他	計
H24 年度				6		8		2			4	1	21			42
H25 年度	2	9								1					28	40
H26 年度	12	1	8	2	2	1			4			1		1	12	44
H27 年度	11	8	26	6	1						2	25	2		6	87
H28 年度	16	12	31	55	7						4	10	2		4	141
H29 年度	21	6	21	25	13			6	2	2	2	12		5	6	121

- ⑤観光DMO組織の設立（北海道江差観光みらい機構）
- ⑥日本で最も美しい村連合への加盟と日本遺産認定
- ⑦純粋な「観光宿泊客」は把握できていない
- ⑧江差を代表する歴史的観光施設「横山家」の休館
- ⑨いにしえ街道への新規出店

課題

- ①観光地としての認知されていない状況
- ②観光客用窓口のワンストップ化
- ③空路、陸路から不便な２次交通
- ④オンシーズンとオフシーズンの明確な差
- ⑤オンシーズンにおける「滞在時間」の延伸
- ⑥オフシーズンにおける「来訪者」増
- ⑦観光客用の宿泊施設不足
- ⑧食の魅力向上不足
- ⑨魅力ある土産物の不足
- ⑩江差追分会会員数の減少と高齢化

成果のあった施策

〔江差町版観光DMO「北海道江差観光みらい機構（以下、「機構」）」設立事業〕

平成29年10月に、本町の観光振興の核となる機構を設立。

当面は、町で一番観光客が訪れる「開陽丸青少年センター」において観光情報案内所の窓口業務を行うほか、次の3つを柱とした事業を展開することで、地域が稼ぐ力を引き出す事業展開をしていきます。

- ①情報発信・・・江差町における観光情報等について、インターネットを活用した発信を行うとともに、旅行業者等の事業者との連携により観光誘客を図る。
- ②観光客受入・・・観光案内の充実化、体験型観光のメニュー化の促進等の観光客受入体制を整備し、来訪者及びリピーターの増加を図る。
- ③ぷらっと江差の経営・・・町のアンテナショップである「ぷらっと江差」の経営の安定を図りながらも、地元の商品等のPR・ブランド化、販路拡大を図る。

(参考) WEBでの「お知らせ」情報の発信比較 (上半期)

	年 度	件 数	説 明
機 構	令和元年度	1 2 9 件	イベントなど観光情報の件数
江差町	令和元年度	1 0 件	町全体のお知らせ件数
	平成 30 年度	1 7 件	
	平成 29 年度	1 5 件	

(参考) 一つ上の情報発信 (姥神大神宮渡御祭)

「イベントを実施します」「しました」だけではなく、今年度、注目を浴びた情報発信としてお祭りで山車の位置が判るサービスを実施。

他にも奥尻行フェリーの欠航情報や連休中や姥神祭り期間中の駐車場情報などを提供。

山車の位置 ネットでわかる

【江差】檜山管内江差町の道指定無形民俗文化財・姥神大神宮渡御祭(9・11日開催)の祭典協賛実行委は、町内を巡行する山車の位置をホームページで見られる「山車ロケーションマップ」を初めて製作した。華やかな装飾で観光客に人気の山車に衛星利用測位システム(GPS)を取り付けて位置を地図に表示。祭り見物に役立ててもらおう。

山車は13台あり、武田信玄などの人形が載せられ水引やちょうちんで飾られている。GPSは先頭と最後尾の計2台と、先頭の前方を練り歩くみこし1基に付ける。

山車の位置を表示する地図を見せ、「これを利用して祭りを楽しんで」とPRする今谷さん

本祭の10、11の両日に、町公式ホームページから観光情報サイトに



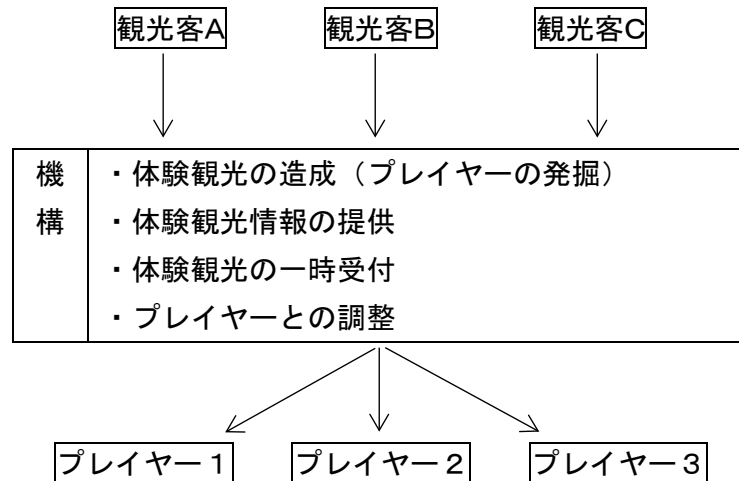
江差・姥神祭り 本祭2日間、GPS活用

アクセスすると、地図に山車とみこしの現在地が表示され、5分おきに更新される。

観光客から「山車はどこですか」との問い合わせが多いため、スマホなどで随時確認できるようにした。GPSはシステム開発のエコモット(札幌市)が貸し出し、位置情報を送る無線回線は通信大手KDDIが提供する。町地域おこし協力隊の今谷好志さん(44)が3月、エコモットに企画を持ちかけ実現した。

今谷さんは「山車は、1カ所ではなく、見る場所を変えらることで違った良さが感じられる。このサービスを活用し、気に入った場所から迫力のある様子を見てほしい」と話している。(古田裕之)

(参考) 体験観光を例とした観光客受入体制のイメージとして



(参考) 「観光で稼ぐ」プレイヤー作り

(第3種郵便物認可) 函 館

【江差】町は22日から、道の駅江差（尾山町1）で、松山地域の郷土菓子・ころれんをアレンジした「ミニころれん」を販売する。日本一小さい道の駅として4月にリニューアルオープンした同駅のイメージに合わせて開発した新商品で、町内の共同作業所が製造を担当。将来的には地元を代表する特産品を目指す。（小川俊之）

松山の郷土菓子をアレンジ

「ミニころれん」味わって

江差道の駅あすから発売

ころれんは、ふかしたもち米に砂糖や塩、ゴマなどを混ぜて団形に薄く延ばし、数日寝かせて作る保存食品。食べる時は焼くか5分程度の「ロース」に揚げることができる。サクサクした食感を楽しめる。のおやつなどに気軽に味わって、江差町のイメージを高める。江差町を中心に周辺町村で、つてもうひとつの目標とする。小林直美さん（41）は、

製造するのは、NPO法人南松山あゆみ共同作業所（新栄町26-4）の利用者5人。材料には、産地のもち米「風の子ども」を使用し、1枚ずつ型を使っで丁寧に伸ばしながら形を整えていく。作業を担当する小林直美さん（41）は、

「最初は同じ形にそろえるのが難しかったが、練習を重ねて上手にできるようになった。たくさんのお客さんに自分たちの作ったミニころれんを買ってもらえたらうれしい」と話す。同所の特産品の製造に関わらせてもらい、利用者も意欲的に作業に取り組んでいる」と

ミニころれんは1パック5枚入りで380円（税込）で販売。初日は限定20個を発売する。問い合わせは江差観光みらい機構（0139・56・1144）へ。

道の駅で販売されるミニころれん

1枚ずつ丁寧にミニころれんを作る共同作業所の利用者

江差の農村部で食べられている「ころれん」とそのミニ版を、あゆみ共同作業所へ製造を働きかけ。

4月から製造し道の駅で「小さいもの」シリーズで販売。あゆみでは、これをきっかけに独自の製品作りを開始。プレイヤーづくりの一つ。



(参考) アンテナショップ「ぷらっとえさし」上半期販売対比(単位:千円)

業者名	平成30年度	令和元年度	対比
製菓業A	2,624	3,616	138%
水産加工品販売業A	1,674	1,459	87%
水産加工品販売業B	983	1,032	105%
製菓業B	703	744	106%
水産加工品販売業C	635	734	116%
水産加工品販売業D	136	680	500%
製菓業C	315	389	123%
木工加工業	52	177	340%

※ 掲載は上半期、10万円以上の売り上げ地元売上業者

※ 「売りたい」町民の支援としてパッケージデザインなどの指導も

実施したが、成果があまりなかった施策

〔タブレットを活用した観光案内システム(H24)〕

アンドロイドタブレットを活用した観光案内システム。情報端末機器の高度化やネット上での地図情報が使いやすくなったことからニーズがなくなった。

端末は、案内用として使用しなくなった後、江差を紹介する動画をインストールし観光誘致の際に持参しながら活用中。

〔江差町食の魅力向上による観光客誘致事業(H27推進交付金事業)〕

目的である「宿泊施設で提供されるサービスメニューの向上」にはつながらなかった。事業開始が10月と観光シーズンを逸していたなどから利用想定が計画より大きく下回った。また、ベニズワイガニを現物で支給し支援を行ったが、各旅館では取り組みが継続されていない。

今後取り組む施策等について

◆旅行を計画される方が江差を魅力ある観光地として認識し足を向けてくれるよう、機構運営の早期安定化と、課題となる次の項目を着実に整理しながら江差町が観光で高い経済効果を得られるような仕組みづくりを作り上げていく。

- ①観光地としての認知されていない状況
- ②観光客用窓口のワンストップ化
- ③空路、陸路から不便な２次交通
- ④オンシーズンとオフシーズンの明確な差
 - ・オンシーズンにおける「滞在時間」の延伸
 - ・オフシーズンにおける「来訪者」増
- ⑤観光客用の宿泊施設不足
- ⑥食の魅力向上不足
- ⑦魅力ある土産物の不足
- ⑧江差追分会会員数の減少と高齢化